

徳山動物園リニューアル基本計画

(概要版)

令和3年4月

周南市

■計画の目的

本市最大の観光施設である徳山動物園は昭和35年（1960年）3月に開園し、令和2年（2020年）3月に60周年を迎えた。魅力ある動物園づくりを目的として、平成20年度（2008年度）から全園リニューアル事業に着手した。その後10年が経過する中で、スリランカゾウ寄贈に伴う整備区域や事業スケジュール等の変更、地球規模の環境変化に伴う希少動物の導入困難性の高まりに対応して展示計画の見直しが必要になったこと、周南市中心市街地活性化の拠点施設の一つとして位置付けられたこと、都市公園法改正に伴う民間活力導入の可能性など、徳山動物園を取り巻く状況や期待される役割にも変化が生じてきている。

そのため、今後の徳山動物園のリニューアル事業の推進にあたり、事業開始から10年が経過した整備状況を踏まえつつ、計画条件の変化等に対応し、まちなかのコンパクトな動物園として、種の保存や環境学習の拠点、中心市街地活性化の拠点としていくため、与条件の再整理を行い、基本計画の変更を行うものである。

■リニューアル事業の進捗状況

徳山動物園リニューアルの事業進捗は、順次以下のように施設供用を進めている。

- ・周南の里 里地エリア（るんちゃ♪るんちゃ） ⇒オープン 平成28年（2016年）3月
- ・自然学習館「ねいちゃる」、野鳥観察所 ⇒オープン 平成29年（2017年）10月
- ・ペンギンプール、ふんすい広場 ⇒オープン 平成30年（2018年）8月
- ・ゾウエリア第1期部分（ゾウ舎等） ⇒オープン 平成31年（2019年）4月
- ・アジアの熱帯雨林ゾーン（マレーグマ舎等） ⇒オープン 令和3年度（2021年度）予定



■基本理念・コンセプト

徳山動物園のリニューアルにあたっては、「徳山動物園リニューアルFS調査検討業務委託（平成20年度（2008年度））」にて、事業全体の基本的な方向性を検討し、翌年度の「徳山動物園リニューアル基本計画策定業務委託（平成21年度（2009年度）、以下当初計画とする）」で基本理念、基本コンセプト及び具体的な展開方策を示している。

本事業は、「第2次周南市まちづくり総合計画」後期基本計画の推進施策の一つとして位置付けられており、本計画の作成にあたっては、これまでの業務の中で設定されてきた基本理念やコンセプトを継承する。

【基本理念】

『動物や自然環境のすばらしさを体感し、地球環境に親しみを抱いてもらう』
 ～小さな動物園から地域へ、そして大きな地球へつながる動物園を目指して～

徳山動物園は、中心市街地活性化の拠点施設の一つとして、多くの人を惹き付ける魅力的なものである必要があり、そのためには、まず『動物や自然環境の素晴らしさを体感し、地球環境に親しみを抱いてもらう』ことが第一義であると思われる。また、それを楽しみながら自然に伝えるには、エンターテインメント性を充実させた動物園を目指すこと、いわゆる「エデュテインメント」という発想が大切だと考えられている。

基本計画（変更）では、コンパクトな市街地の中にある「まちなか動物園」としての立地特性を考慮して、リニューアル事業の基本コンセプトと基本方針を計画策定以後の社会変化を含ませて以下のとおりとする。

『CONDENSED ZOO』～楽しさ・驚き・学び・喜び・和みがぎゅっと詰まった動物園～

息遣いを感じる！
動物まで近い動物園

とにかく間近で動物観察や体験ができる、オリで分けられるのではなく、ガラスやメッシュ越しに動物たちの息遣いや生の迫力を感じるダイレクト感に満ちた動物園。

次々、発見！
色々な視点で楽しむ動物園

それぞれの動物の魅力や様々な方向や時間帯で観察できる、多様な視点のある動物園。その時々で何度も新しい発見に出会える楽しさを詰め込んだ動物園。

地球環境を守る動物園

動物の生息地の自然環境の変化と、そこに影響する人間の文明活動を総合的に紹介することで、地球環境の保全と持続的な開発目標につながるライフスタイルの必要性を感じ、周南にしながら、地球全体につながっていることを感じる動物園。

人も動物もホッとさせる動物園

地域の方にとって、懐かしくホッと和める「庭」のような動物園。季節をゆっくり感じる場所のある動物園。動物達が安心して子供を育て、楽しく生活できる動物園。

様々なスタイルで
利用できる動物園

利用者の興味や時間に応じて、様々なコースやプログラムを選択して利用できる動物園。ICTを活用しリモートでも活用できる動物園。

イメージーションと
融合する動物園

動物園の展示物は本物の自然環境が持つ力（情報量）では、かなわないが、展示物を利用する側の経験や知識と融合することで強いイメージ（情報やメッセージ）を与えることができる動物園。

■課題の整理と見直しの方針

当初基本計画策定から10年経過した計画条件等の変化と課題を以下のように整理し、基本計画（変更）における見直し方針を設定する。

■徳山動物園を取り巻く条件の変化

- 【当初事業計画と現在の状況】**
○スリランカゾウ2頭の寄贈（平成25年（2013年）寄贈）により、北園先行の整備計画をゾウ舎最優先で整備するため南園に着手。これにより、事業スケジュールが長期化、事業費が増大。
- 【動物コレクションと環境保全に関する国際動向】**
○ホッキョクグマが死亡（オス：平成23年（2011年）、メス：平成28年（2016年））。繁殖のため少なくとも2頭の導入が必要だが、現在は生息域における保全が最優先されるため2頭導入は極めて困難。
- 【周南市のまちづくりへの新たな対応】**
○周南市立地適正化計画（平成29年度（2017年度））による都市機能誘導区域の位置づけや第2期周南市中心市街地活性化基本計画（令和2年度（2020年度））による動物園までの区域拡大など、都市機能増進施設としての役割や観光交流促進のための更なる機能強化が求められている。
- 【都市公園法の改正】**
○都市公園法改正（平成29年度（2017年度））により官民連携も含めたさらなる公園利用サービスの向上が推進されている。
- 【市民と利用者の安心・安全への対応の変化】**
○自然災害の頻発、感染症の蔓延、熱中症の増加等により安心・安全への認識が大きく高まっており、動物園としての対応が求められている。

■徳山動物園の5つの役割からの課題

- 【種の保存】**
○国内外の動物園と連携した飼育動物の保存と繁殖。
- 【環境学習】**
○動物の生息地の気候帯や環境と人間の経済活動とのつながりをイメージできる展示等の工夫が必要。
- 【命の学習】**
○命について考える機会の提供。
- 【地域の賑わいの創出】**
○幅広い年代や属性に楽しい時間を提供する。
- 【市民の活躍の場の創出】**
○市民ボランティア活動のさらなる推進

■公園緑地としての課題

- 【景観】**
○動物園内外からの景観づくり、景観資源や歴史資源等のさらなる活用。
- 【防災】**
○「広域避難地」としての動物園の必要事項の整理

■基本計画の見直し方針

- 【事業スケジュール、事業費の見直し】**
○整備の実態を踏まえ、今後の円滑な事業推進のため、事業スケジュールと事業費の再構築を行う。
- 【展示計画の見直し】**
○導入の実現性を踏まえた動物展示計画（導入種）とこれに伴う施設計画、動線計画の見直しを行う。
- 【運営計画の見直し】**
○本市最大の観光施設として、中心市街地の回遊性向上に寄与する施設運営に取り組む。（隣接の文化会館や美術博物館等との連携による魅力の向上、徳山駅周辺の商店街等との連携による中心市街地の回遊性の向上等）
○都市公園法改正を活かし、徳山動物園の特性を踏まえ、民間連携等も含めた入園者サービスや魅力向上の在り方を検討する。
- 【さらなる安心・安全に向けた見直し】**
○感染症等に対して安心・安全に利用できる工夫を検討する。
- 【施設計画の見直し】**
○限られた敷地面積の中で繁殖に必要な環境整備や環境エンリッチメントを高める。
○動物の生息地の気候帯や環境をイメージできる生態展示や園内景観の創出、映像展示等の工夫を検討する。
○命について考える機会を提供できる展示内容や、体験プログラム実施場所を検討する。
○野外レクリエーションやイベント、ユニバーサルデザインに対応した施設を検討する。
○ボランティア活動の実施や推進に必要な施設を検討する。
- 【展示計画、景観計画、施設計画の見直し】**
○生息地をイメージできる園内景観の作り込み、園外から見た景観づくり、園内景観資源や歴史資源の活用を検討する。
- 【防災機能の強化】**
○広域避難地としての利用内容と必要なハード・ソフト対応を検証し、日常的な周知・啓発の手法を検討する。

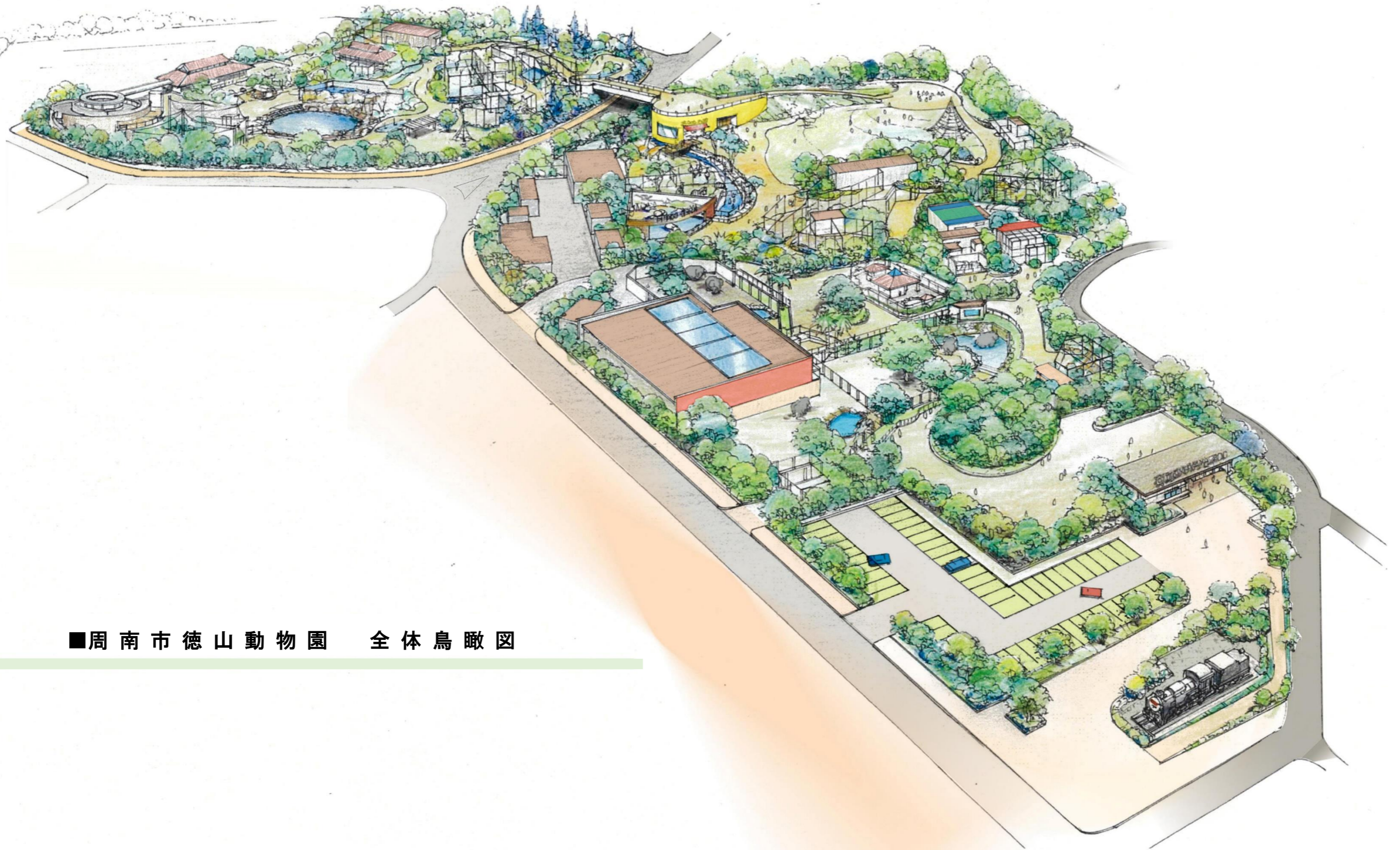
■基本計画の見直し概要

- 最適な整備スケジュールと事業費の再設定**
・動物移動計画に合わせた整備フェーズの変更及びこれに伴う事業期間と事業費の再設定。
・事業の長期化に伴う労務資材単価等を踏まえた事業費の設定
- 実現可能な展示動物種に合わせた展示ストーリーの再構築**
・ホッキョクグマ導入は見送り、北極圏での動物達の状況や環境問題についての解説を設置。
・ホッキョクグマ以外の展示動物種（例：トナカイ、オオカミなど）に合わせた施設計画。
- 中心市街地の北の核として駅周辺と連携したまちづくりを推進**
・運営計画に中心市街地と連携した魅力向上や回遊性の促進を追記。
- 民間活力の導入による入園者サービスや魅力向上**
・飲食物販施設への民間活力導入方針を追記。
・経営計画に飼育部門と管理部門の将来のあり方を追記。
・ネーミングライツの導入方針を追記。
- 新たな生活様式に対応した安心して楽しめる動物園**
・非接触型ゲートや電子チケットの導入など感染症に対応した施設づくり。
・熱中症対策強化のための日陰やミスト等を設置。
・リモートでの活用の幅が広がるICT機能の整備。
- みんなに優しく楽しい動物園になるよう施設を充実**
・種の保存の観点からの管理施設やバックヤード機能の充実。
・既存樹木を活用した生息地のイメージができる景観づくりの充実。
・T-ZIP*等による体験プログラムの充実。
・利便性を考え飲食物販施設を園の中心に配置。
・中央広場ゾーン等を活用したイベントを展開し、賑わいの創出を推進。
・南園築山などを利用した野外レクリエーション施設の設置。
・ボランティア活動支援の充実（ボランティア用諸室の設置）
- 園内外景観の充実と歴史的景観資源の活用**
・S Lを生かしたエントランス広場の設置及び回遊ルートの新設。
・遥拝石等の歴史的景観資源を活用した歴史文化のふれあいづくり。
・南北連絡歩行者動線の景観づくり。
- 徳山公園が受け持つ防災機能の充実**
・平常時の利用者の利便性に考慮した防災機能及び施設の配置。（Wi-Fi受信設備、ベンチ、照明施設等）

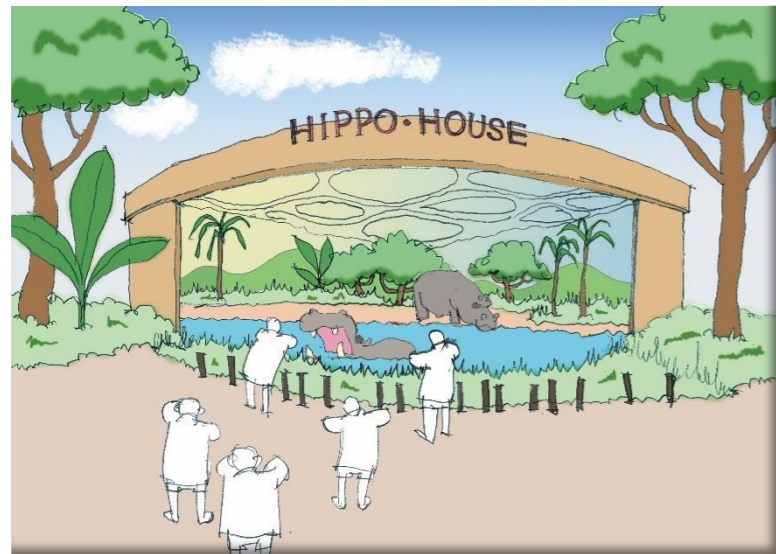
■基本計画

- III 9. 事業計画
(1) 事業スケジュール
(2) 概算事業費
- III 7. 供給処理施設計画
- III 2. 展示計画・景観計画
(1) 展示テーマとゾーン設定
(2) 展示ストーリーと景観計画
- III 8. 運営計画
(2) 徳山動物園Zooストック計画
- III 8. 運営計画
(4) 中心市街地と連携した魅力向上や回遊性の促進
- III 5. 施設計画
(5) 利便施設
III 8. 運営計画
(5) 経営計画
- III 2. 展示計画・景観計画
(1) 展示テーマとゾーン設定
(2) 展示ストーリーと景観計画
- III 3. 動線計画
(1) 観覧動線
(2) 管理動線
(3) 南北連絡歩行者動線
- III 4. 施設配置計画
(1) 全体計画
(2) 建築施設計画
(3) 植栽計画
- III 5. 施設計画
(2) 園路広場
(3) 駐車場
(4) 展示施設
(5) 利便施設
(6) 動物管理施設
(7) 管理運営施設
(8) その他
- III 6. 防災計画
(2) 基本的な考え方

*T-ZIP 徳山動物園インタープリテーションプログラム



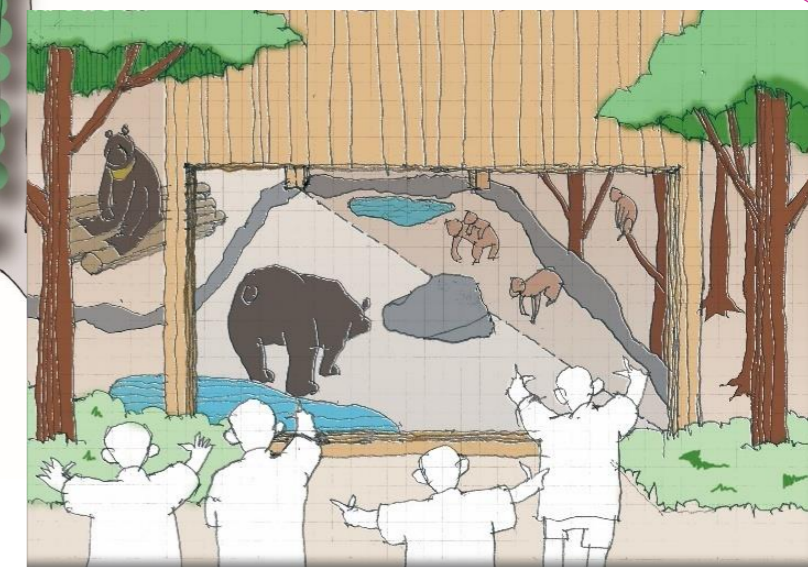
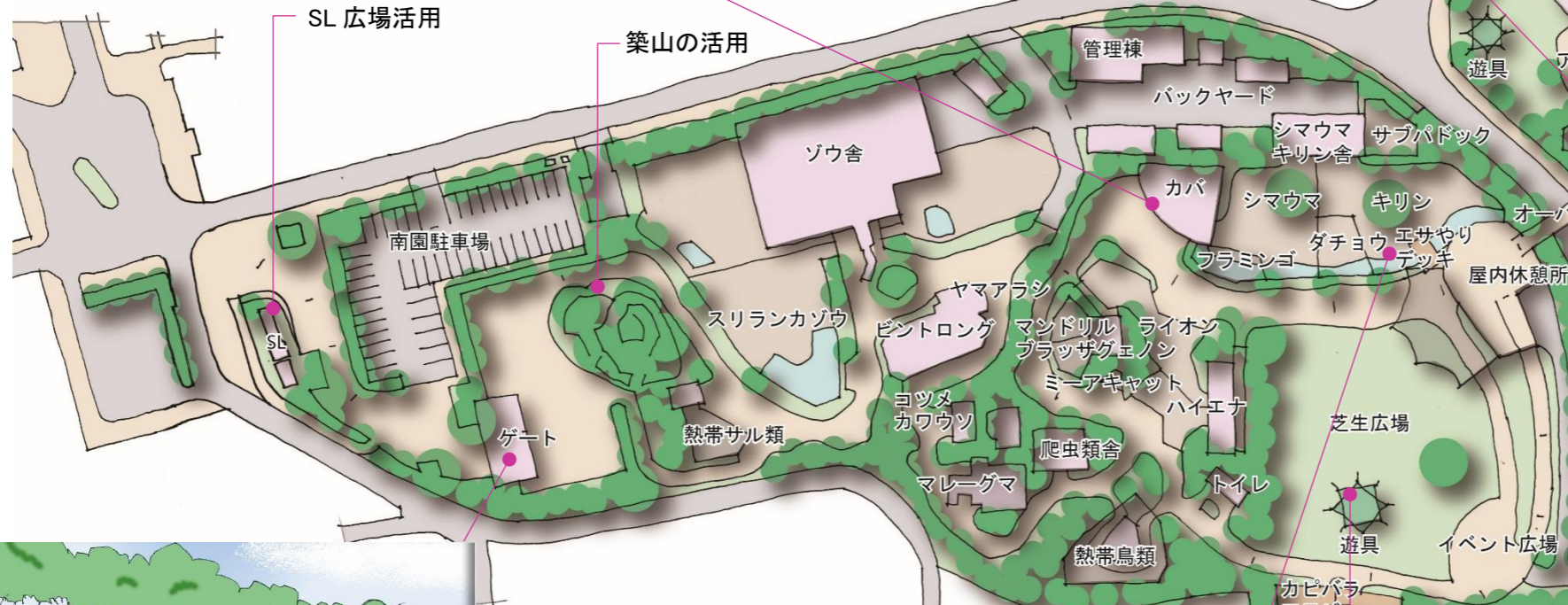
■周南市徳山動物園 全体鳥瞰図



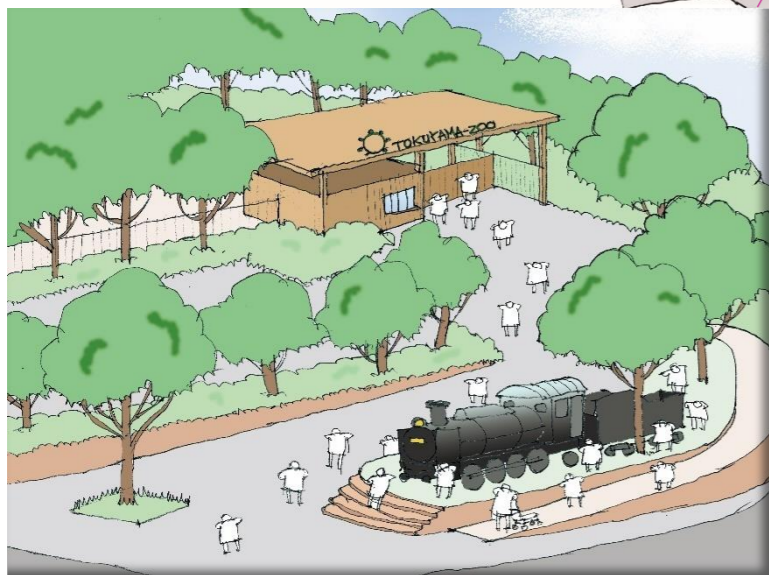
アフリカのサバンナ(カバ)



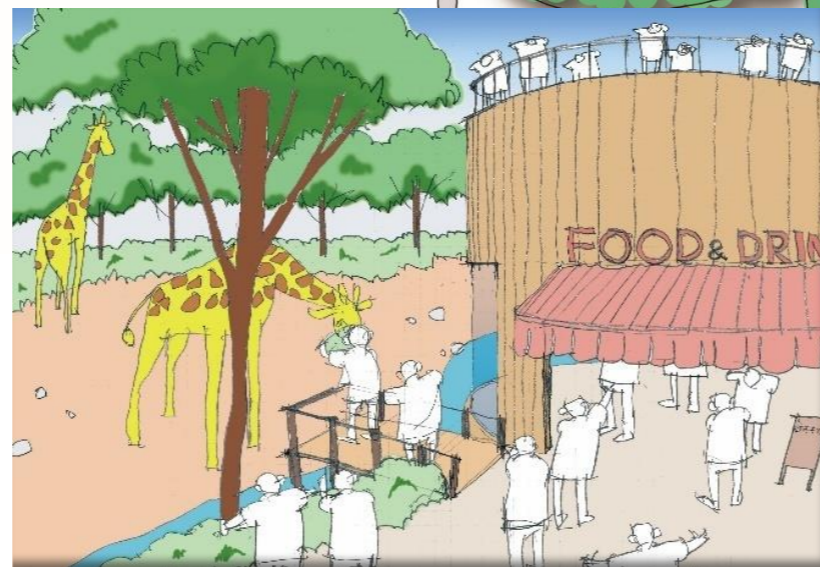
極東アジア(トラ・トナカイ)



周南の里(クマ・サル)



南エントランス



アフリカのサバンナ(キリン)

遊具の導入

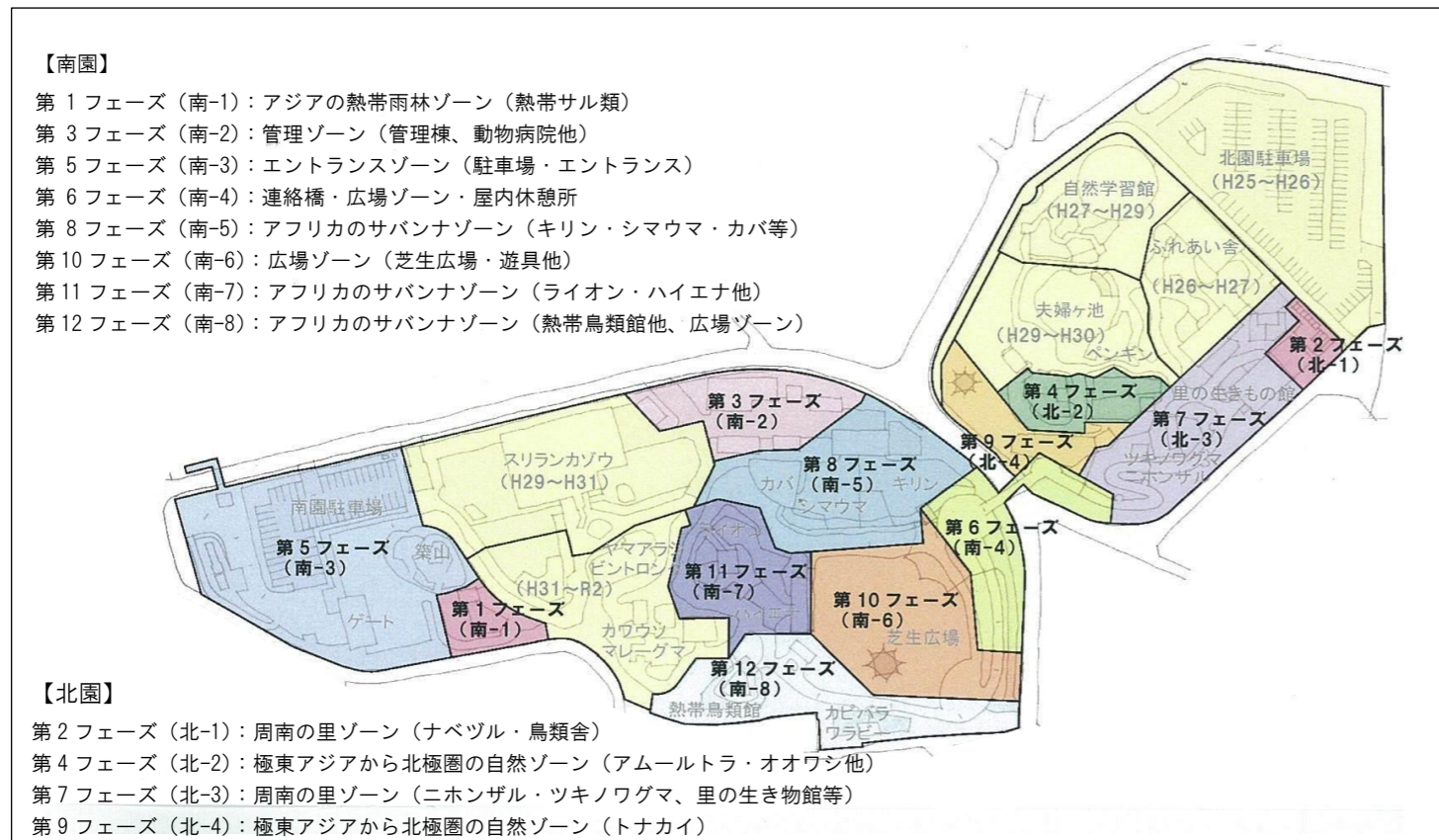
基本計画(変更)全体平面図

■事業スケジュール及び概算事業費の見直し

事業スケジュールは、整備手順を検討するにあたっては、開園しながらのリニューアル整備であること、仮設獣舎が生じないよう園内ローテーションを検討し、コストの最小化を図ることや動物の負担軽減のため、最低限の獣舎間の動物移動にすることをふまえて、フェーズ分けによる最も効率的な段階的整備を行うものとする。令和14年度（2032年度）の全園リニューアルを目指し整備を進める。

概算事業費は、当初計画の北園約23億円、南園約27億円の合計約50億円から変更後は北園約26億円、南園約44億円の合計約70億円を見込むものとする。

	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度	
		2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	
当初	【北園】	北園駐車場	周南の里ゾーン ふれあい舎他	ウェルカムゾーン 自然学習館他		ウェルカムゾーン ペンギン		周南の里ゾーン(里山～奥山) (ニホンザル・ツキノワグマ・里の生きもの館他)			極東アジアから北極圏の自然ゾーン (アムールトラ・オオワシ・オオカミ・トナカイ他)			極東アジアから北極圏の自然ゾーン ホッキョクグマ								
	【南園】				アジアの熱帯雨林ゾーン ゾウ舎・ゾウ舎屋外飼育場			アジアの熱帯雨林ゾーン マレーグマ他		エントランスゾーン 駐車場・南エントランス	広場ゾーン (屋内休憩所)	アフリカのサバンナゾーン (ライオン・ハイエナ・カバ・キリン・シマウマ他)			広場ゾーン (芝生広場他)							
変更	【北園】	北園駐車場	周南の里ゾーン ふれあい舎他	ウェルカムゾーン 自然学習館他		ウェルカムゾーン ペンギン・夫婦池他				第2フェーズ (北-1) 鳥類バックヤード	第4フェーズ (北-2) アムールトラ・オオワシ・オオカミ			(第6フェーズ・連絡橋)	第7フェーズ (北-3) ニホンザル・ツキノワグマ・里の生きもの館他 (第8フェーズ・虹の架け橋撤去)							
	【南園】				アジアの熱帯雨林ゾーン ゾウ舎・ゾウ舎屋外飼育場			アジアの熱帯雨林ゾーン マレーグマ他	第1フェーズ (南-1) 熱帯サル類	第3フェーズ (南-2) 管理棟他	第5フェーズ (南-3) 南園駐車場・南エントランス		第6フェーズ (南-4) 連絡橋・広場ゾーン・屋内休憩所		第8フェーズ (南-5) キリン・シマウマ・カバ・虹の架け橋撤去			第10フェーズ (南-6) 芝生広場・遊具他	第11フェーズ (南-7) ライオン・ハイエナ他	第12フェーズ (南-8) 熱帯鳥類館・広場ゾーン他		



◆リニューアル事業概算事業費

区域	概算事業費(単位：億円)		事業費増の要因 (平成24年(2012年)→令和2年(2020年)比較)
	当初計画	変更計画	
北園	約23億円	約26億円	1. 消費税率の引き上げによる増額分 約2.5億 平成24年(2012年)(5%)→令和元年(2019年)(10%) 2. 建設資材・労務単価の上昇に伴う増額分 約7.5億 1) 主要建設資材 約20%上昇 2) 労務単価 約40%上昇 3. オーバーブリッジ(南北連絡通路)の追加 約3億 4. ゾウ舎及びパドックの拡大に伴う増額 約5億円 5. 施工フェーズの組み換えに伴う仮設獣舎の追加 約1億円 6. 動物愛護法の改正による飼育仕様の変更による増額 約1億円 (令和2年(2020年)6月改正)
南園	約27億円	約44億円	
合計	約50億円	約70億円	